

(事後評価)

先端領域若手研究者グローバル人材育成

(実施期間：平成19～23年度)

実施機関：電気通信大学（総括責任者：梶谷 誠）

プロジェクトの概要

学外委員を含む「若手グローバル人材育成委員会」を学長の下に設置し、本委員会の主導により、ポスドク経験者等を5年任期の特任助教として国際公募し、採用する。本学における育成制度の特徴は、制度、資金、スペースで研究の自立性を保障するだけでなく、①任期2年目での国際的トップランクの研究機関への長期派遣、②任期後半での授業の担当、③メンター制度の導入、④研究と教育の評価、⑤テニユア・ポストは准教授または教授、にある。3年目には学外派遣の成果、今後の研究の方向性・計画などを対象として中間評価を行い、評価基準やメンター制度の確立を図る。実施期間終了後は、本事業による制度を任期付新規助教の採用に拡充していく。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	a	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクト実施期間中に全学の人事を一元化した体制を活用して着実にテニユアトラック制（以下「TT 制」という。）の継続・定着が図られているとともに、プロジェクト終了後においても学長のリーダーシップの下で人事活性化システムを統轄できる体制を確立していることは評価できる。

- ・**目標達成度**：「先端領域教育研究センター」による過剰な関与を排除し、テニユアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）に十分な研究費を配分し、自立に配慮した制度設計が行われたことは評価できる。しかし、テニユアポストを十分に準備したにもかかわらず、自機関のテニユア職への採用率が低くとどまったことを十分に分析し、今後のTT若手の育成策の改善に活かすことを期待する。
- ・**国際公募・選考・業績評価**：TT若手の選考・採用にあたって学外者が適切に参画し、外国籍研究者と女性研究者をそれぞれ3名ずつ採用したことは評価できる。一方で、機関

のテニユア准教授に採用するTT若手が自らの研究分野の深化と発展に寄与し、機関の教育研究機能強化に貢献するリーダーシップとマネジメント能力を発揮し得る育成施策の実施を期待する。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：「若手グローバル人材育成委員会」を設置し、プロジェクト実施の統轄からTT若手の採用・育成・評価・審査を一元化したこと及びTT若手の海外研修を積極的に支援したことは評価できる。今後は、外国籍研究者のみがテニユア審査に不合格となったことを踏まえ、外国籍研究者育成方策の確立を期待する。
- **制度設計に対するマネジメント**：教員人事を一元化することによって全学レベルで空きポストを活用できる体制として、TT若手の採用可能数を増加させるとともに、プロジェクト実施期間中にライフイベントへの対応を行い、TT若手応募者数を増加させる施策を実施したことは評価できる。今後は、TT制によって重要分野の開拓・強化に資するために採用する准教授を増加させることを期待する。
- **実施期間終了後における取組**：本プロジェクトの実施期間中に「UEC テニユアトラック制度」を開始し、人事一元化の下にTT制の全学レベルでの定着を企図していることは評価できる。今後はTT制による若手研究者の採用・育成を着実に増加させることを期待する。
- **中間評価の反映**：中間評価結果を踏まえて、メンター教員のTT若手への関与が過大とならないように改善するなど中間評価の反映が的確になされていることは評価できる。